

# ひとが輝く、デジタル化を推進する

## 最先端技術を活用したまちのデジタル化

35億7631万円  
最先端のデジタル技術を活用した各種施策を推進し、都市活力の創出やコミュニティの活性化、市民サービスの向上につなげます。未来社会の先行実現を目指すスーパードイツ構想の実現に向け、東北大学や民間事業者と連携し、先端的なサービスの創出を推進します。

## 次世代放射光施設等関連産業振興

32億8941万円  
次世代放射光施設の令和6年度運用開始に向け、施設整備に対する融資等を行うほか、トライアルユース事業など利活用の促進に取り組みます。次世代放射光施設



次世代放射光施設「ナノテラス」。新しい産業や技術の創出による地域経済の活性化が期待されています

の立地を仙台・東北の産業におけるイノベーションや付加価値の創出等につなげます。

## 防災・減災分野におけるデジタル化

8614万円  
産学官金連携による防災関連事業の開発を支援するなど、新しい産業創出モデルの構築を推進します。また、SNS等を利用し、災害時の被害情報等の集約を行う実証実験や、先端技術を活用した避難広報の実施により、地域の防災力強化に取り組みます。

## デジタルによる地域産業活性化

6億9485万円  
ICT関連企業と幅広い産業の協業や新事業の創出を支援し、ICT関連企業の集積促進など、地域産業の活性化を推進します。地域企業のデジタル化やデジタル技術を活用した新製品等の開発を支援するほか、中心部商店街における人流データを分析し、来街者の増加や回遊性向上のための施策につなげます。

## 市民の健康のためのデジタル化

4504万円  
eスポーツによる高齢者の健康づくりや生きがいづくりを推進するとともに、ICTを活用したフレイル予防のための健診を実施します。また、特定健診の受診率向上に向け、AIによるデータ解析を進め、効率的できめ細かな受診勧奨を行います。

## 教育におけるデジタル化

3億8748万円  
市立小・中学校全校にデジタルドリルを導入し、一人一人に応じた学習支援を行うなど、ICTの活用により多様な学びの充実を図ります。

## 先端技術等を活用した宮城地区の地域課題解決

1500万円  
宮城地区西部において、ICTやAIなどの先端技術を活用した、回覧板の電子化や有害鳥獣対策など、さまざまな地域課題の解決に向けた取り組みを進めます。

## タブレット端末を活用したサービス運用などの利便性向上

8759万円  
窓口での申請書記入の負担を軽減する「書かない窓口」の導入や、タブレットを活用した手続き案内、各種申請手続きのオンライン化の推進など、行政手続きのデジタル化を拡充し、市民の利便性向上とサービスの効率化を図ります。

### その他の主要事業

- デジタルを活用した賑わい創出 6953万円
- 仙台MaaS推進 1414万円
- 子ども・子育てにおけるデジタル化 2億3219万円
- 医療・救急現場におけるデジタル化 2億7737万円
- 人にやさしいデジタル化 1279万円
- 業務のデジタル化 8988万円
- D・Sense dai ビジョン策定等 3492万円

※4～9ページの主要事業では、一部の事業費の中に、再掲分が含まれます  
※金額はいずれも1万円未満切り捨て

# ひとの暮らしを支え、未来の担い手を育む

## すこやか子育てプラン推進

781億6171万円  
安心して子どもを産み育てることができるよう目指して、児童館の整備など、子育て環境の充実等に取り組みます。一時保護児童が入院する際の付き添い支援や、子どもたちの通所スペースであるふれあい広場サテライトの拡充を図るなど、未来を担う子どもたちが健やかに育つことができるよう各種施策を推進します。

## 妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の充実

680億4917万円  
子ども医療費助成の所得制限を撤廃するほか、妊娠期から出産・子育て期まで一貫して支える伴走型相談支援と、出産・子育て応援給付金の支給を一体的に実施します。また、不妊に悩む方に対する相談支援体制の拡充を図るほか、定員に空きのある保育所等において、未就園児を定期的に預かるモデル事業を実施し、保育サービスの充実を図ります。

## 地域社会全体で子どもの育ちと子育てを応援していく環境づくり

3億2892万円  
子育てしやすいまちづくりを推進するため、子ども・子育て支援を行う「(仮称)仙台子ども財団」を設立します。また、公園等における自由な遊びを支える活動を支援し、子どもの遊びの環境の充実に取り組みほか、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた企業等の取り組みを推進し、社会全体で子育てを応援する環境づくりを進めます。



公園等での自由な遊び場の運営など、プレーパーク活動等の普及に向けた支援を行います

## 35人以下学級の実施

6億809万円  
35人以下学級編制を、中学校全学年と小学1～4年生に加え、小

学5年生までに拡充し、教員がこれまで以上に子どもたち一人一人と向き合える体制を強化します。

## 夜間中学運営

6074万円  
4月に夜間中学を南小泉中学校に開設し、さまざまな理由から義務教育を未修了のまま学齢期を経過した方などへの教育機会を確保します。

## いじめ防止等対策推進

16億9613万円  
いじめの未然防止と早期発見・早期対応につなげるため、指導の中核を担う教諭やスクールカウンセラー等を配置します。「いじめ等相談支援室 S-KET」などの相談窓口を運営し、いじめに悩む児童生徒等への支援を行うほか、広報啓発など、いじめ防止対策を総合的に推進します。

## 不登校対策推進

5億2672万円  
不登校生徒の学校内の居場所となる在籍学級外教室「ステーション」

ン」の設置校を20校から25校に拡充し、担当教員を増員します。また、社会福祉に関する課題等に専門的な助言指導を行うスクールソーシャルワーカーを拠点校に配置し、一人一人の状況に寄り添った環境づくりや適切な支援の充実を図ります。

## 困難を抱える子ども・若者支援ネットワーク構築

8404万円  
子ども・若者のさまざまな悩みに対応するワンストップ相談窓口「子ども・若者総合相談センター体制」を整備するとともに、支援に携わる関係機関等で構成する「子ども・若者支援地域協議会」を設置し、連携の強化や効果的な支援に取り組みます。また、就労等に不安を持つ若者を対象に自立や就労に向けた支援を行います。さらに、ヤングケアラーへの支援を強化するため、民間機関等による支援体制の構築や、当事者同士が経験や悩みなどを共有するオンラインサロンを開催します。